

歯科用小照射野 X 線 CT (3DX[®]) 画像診断： 歯根破折の 1 例

内田 啓一¹, 日垣 孝一², 黒岩 博子¹, 杉野 紀幸¹, 塩島 勝¹

¹松本歯科大学 歯科放射線学講座

²松本歯科大学 歯科保存学第一講座

Diagnostic imaging by limited cone beam CT (3DX[®])
A case of root fracture

KEIICHI UCHIDA¹, KOICHI HIGAKI², HIROKO KUROIWA¹,
NORIYUKI SUGINO¹ and MASARU SHIOJIMA¹

¹Department of Oral Radiology, School of Dentistry, Matsumoto Dental University

²Department of Periodontology, School of Dentistry, Matsumoto Dental University

歯の破折には歯冠破折と歯根破折があり、とくに歯根破折は口腔内診査による診断では困難なことがある。また口内法エックス線写真によって破折線の診断が行われてきたが、明瞭に描出される症例は比較的少なかった。今回、われわれは歯科用小照射野エックス線 CT (株モリタ製作所, 京都, 以下 3DX[®]とする) によって、歯根破折を明瞭に観察出来た 1 例を経験したのでその画像を供覧する。

患者は 50 歳の男性。2005 年 10 月 30 日に転倒し、上顎左側中切歯を強打した。その後、咬合痛を認めたため 2005 年 11 月 8 日日本学を精査目的にて受診した。受診時の口内法エックス線写真 (写真 1) では、上顎左側中切歯部の歯根膜腔の拡大と根尖側から 1/3 の部位に水平的な破折線と思われる線状の透過像を認めた。3DX[®]画像 (写真 2) では、根尖側から 1/3 の部位に近心側から遠心側、唇側から舌側方向へ横断する 2 本の破折線と唇側皮質骨の骨折と唇側への変位を認めた。

歯根破折の治療に際しては、主として画像診断

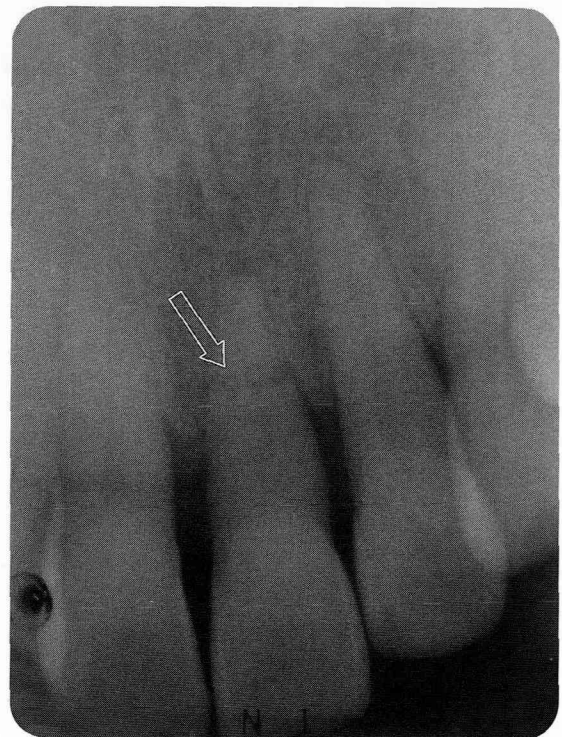


写真 1 : 口内法エックス線写真では、上顎左側中切歯部の歯根膜腔の拡大と根尖側から 1/3 の部位に水平的な破折線と思われる線状の透過像を認める。

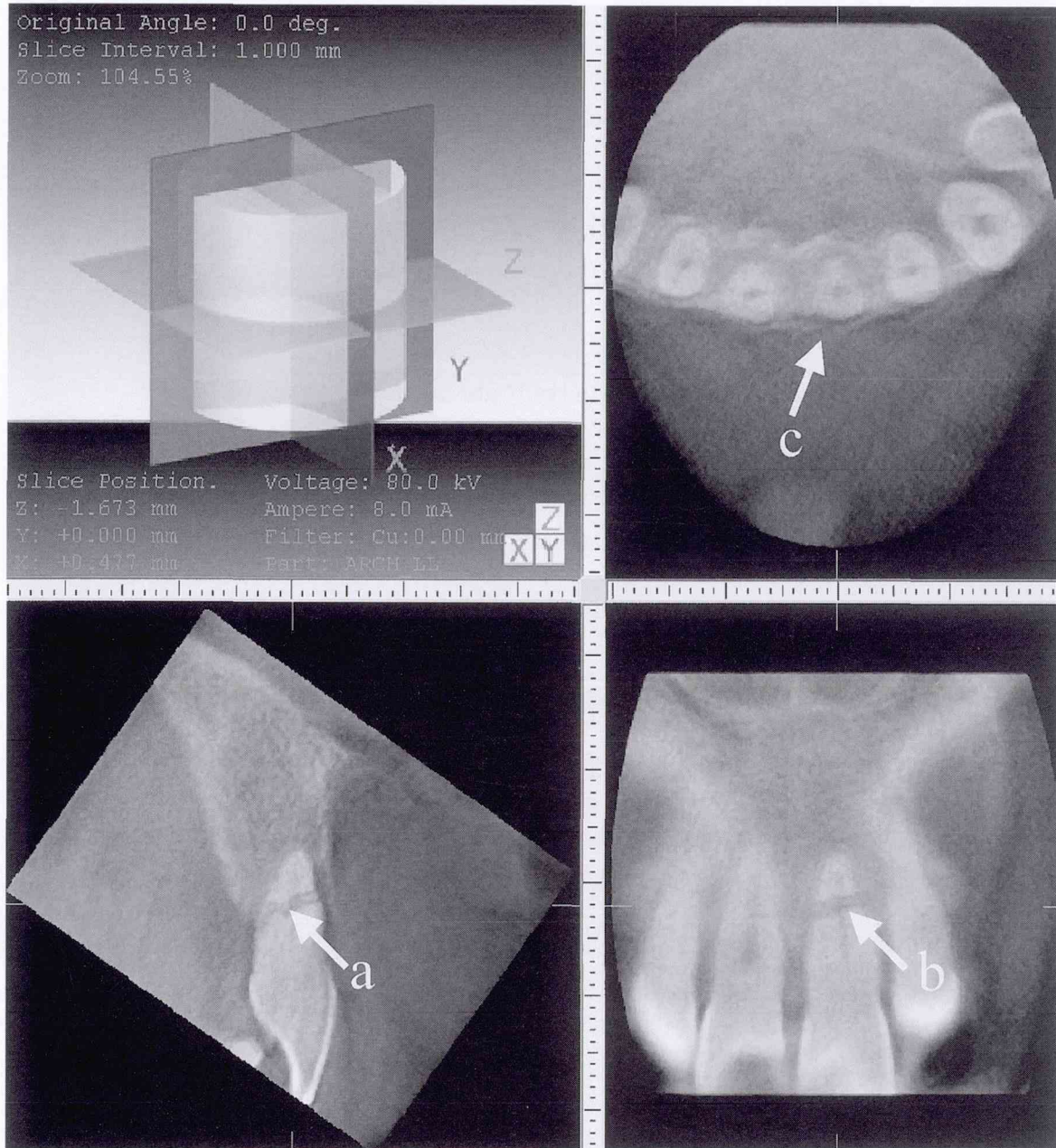


写真2：3DX[®]画像では、根尖側から1/3の部位に近心側から遠心側、唇側から舌側方向へ横断する2本の破折線（矢印 a、b）と唇側皮質骨（矢印 c）の骨折と変位を認める。

により処置方針を決定することは重要であるが、口内法エックス線検査によって歯根破折が明確に観察されることは少ない¹⁾。そのため治療を行っても疼痛や腫脹が認められるようになり、保存不可能な状態になると抜歯を行うことになる症例も少なくない。

今回の症例では、比較的早期に3DX[®]により破折線の診断ができたことにより、破折線の三次元的な位置関係や状態を詳細に検討することができ、今後の治療方針を動画として患者様へ閲覧することでの確に主治医が伝えることができた。し

かしながら、3DX[®]による画像検査もその限度があり、とくに金属修復物によるアーチファクトが問題となることがあり、歯の破折線の診断には十分に注意することも忘れてはならないことである。

文 献

- 1) 篠田宏司監修 (2003) 歯科用小型 X 線 CT による 3 次元画像診断と治療, 第 1 版, 42-4, 医歯薬出版, 東京.